科目名	人体構造機能学Ⅰ（筋・骨関節系）	担当教員	鈴木 大輔 ※印は実務経験のある教員を示す。

開　講　専　攻	分　野	種　別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法学専攻 作業療法学専攻	専門基礎科目	必修	1年次	前期	2単位	講義

ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
HR13AC	②

科　目　概　要	基本的な運動機能や日常生活活動の改善を図るリハビリテーション専門職として，人体の形態的特徴や構造（解剖），及びその機能や仕組み（生理）を理解することは必須である。特に人体の筋・骨関節に関する構造や機能の知識は，身体運動の帰結を解明する思考過程において，人体の構造と機能を関連づける最も基本となる学問である。本科目では，身体各部の主要な骨，関節，骨格筋について，一般的な構造と機能を理解することを目的として学習する。
学　習　目　標	1．骨形態と関節・筋付着部の関連性を理解する 2．関節と運動の関連性を理解する 3．筋の起始・停止を覚え，筋の働きを理解する

回	項　目	主 な 学 習 内 容	学 習 目 標	実務経験教員担当項　目
1	序論	細胞，組織，器官，器官系，ヒトの発生 人体区分，位置，方向用語，構成	人体を構成する［細胞］［組織］［器官］［器官系］の成り立ちを理解する 解剖学で使用する名称を覚える	
2	Ⅰ：骨構造	(1) 骨学総論：骨の発生と成長・骨の構造 (2) 頭蓋：頭蓋骨の構成Ⅰ	骨の発生と成長・骨の構造を理解する 脳函を構成する骨の構成を理解する	
3	〃	(3) 頭蓋：頭蓋骨の構成Ⅱ (4) 脊柱：椎骨と肋骨	顔面を構成する骨の構成を理解する 脊柱を構成する椎骨の基本形・各椎骨の特徴・胸郭の構成を理解する	
4	〃	(5) 上肢帯・上肢を構成する骨 (6) 上肢帯・上肢を構成する骨	上肢帯骨，自由上肢骨の名称と関節構造を理解する 下肢帯骨，自由下肢骨の名称と関節構造を理解する	
5	Ⅱ：関節の構造と機能	(1) 関節学総論：不動関節と可動関節，関節の可動性と運動方向 (2) 関節学各論：頭部・脊柱の関節	関節の一般的構造を把握する 関節の働きを理解する	
6	〃	(3) 関節学各論：上肢の関節Ⅰ (3) 関節学各論：上肢の関節Ⅱ	関節の働きを理解する（上肢帯） 関節の働きを理解する（上肢）	
7	〃	(4) 関節学各論：下肢の関節Ⅰ (4) 関節学各論：下肢の関節Ⅱ	関節の働きを理解する（下肢帯） 関節の働きを理解する（下肢）	

8	III：筋構造	（1）筋学総論：構造，収縮機構，骨格筋の分類 （2）筋学各論：頭部の筋	筋の一般的構造を把握する 筋の名称と働きを理解する（頭部）	
9	〃	（3）筋学各論：体軸筋（固有背筋除く） （4）筋学各論：体軸筋（固有背筋）	筋の名称と働きを理解する（体軸筋） 筋の名称と働きを理解する（固有背筋）	
10	〃	（5）筋学各論：上肢帯，上肢の筋 I （6）筋学各論：上肢帯，上肢の筋II	筋の名称と働きを理解する（上肢帯） 筋の名称と働きを理解する（上肢）	
11	〃	（7）筋学各論：下肢帯，下肢の筋 I （8）筋学各論：下肢帯，下肢の筋II	筋の名称と働きを理解する（下肢帯） 筋の名称と働きを理解する（下肢）	
12	Ⅶ：骨・筋の機能（生理）学	（1）骨生理Ⅰ：骨の機能と構造 （2）骨生理Ⅰ：骨の形成（モデリング）	骨の機能と構造を理解する 膜性骨化と軟骨性骨化の過程を理解する	
13	〃	（3）骨生理Ⅱ：骨の改造（リモデリング） （4）骨生理Ⅱ：骨代謝のホルモンによる調整	骨の改造の過程を理解する 骨代謝に関与するホルモンとその働き、骨の病気について理解する	
14	〃	（5）筋生理Ⅰ：筋の種類と構造 （6）筋生理Ⅰ：筋収縮の過程	筋の種類や構造、収縮の動力源である ATP の代謝過程を理解する 筋における興奮収縮連関を理解する	
15	〃	（7）筋生理Ⅱ：筋収縮の種類 （8）筋生理Ⅱ：筋収縮に影響する因子	筋の収縮様式を理解する 筋張力に影響を及ぼす因子を理解する	

評価方法	筆記試験(100%)
課題に対するフィードバック	ここでの課題は，「授業内容の理解」とします. それに対して①－④のフィードバックを行います ①　授業後の確認テスト ②　次の授業前の簡単な解説（出来が悪い確認テストの問題に対して） ③　個人的な対応（質問に対する回答や解説など） ④　期末テスト
教科図書	F.H.マティーニ他：カラー人体解剖学 - 構造と機能：ミクロからマクロまで 西村書店
参考図書	なし.
学習の準備	予習はしなくてもいいですが、復習は必ず行って下さい 講義の理解できた箇所、理解が不十分である箇所を明確にしておき、不十分である箇所は次の講義で質問できるよう準備をする（180 分）
オフィスアワー	月曜日 13 時-17 時半，水曜日 13 時-17 時半 その他在室時はいつでも可

担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	